

「君津の里山のにぎわい」

基調講演：「地域の誇りと日々の生業(なりわい)を売る」

～房総の立地と豊かな農・林・漁業生産力こそ宝だ～

講 師 清 水 宏

鴨川市農林業体験交流協会 事務局長
農林水産大臣選定 「地産地消の仕事人」
農林水産大臣任命 ボランティア・プランナー



講演要旨

1. 「地域資源を活かした都市と農山漁村の交流」
 - ・「日常の生活」が資源(非日常のイベントを売るのはやめましょう)
 - ・「田舎の誇り」は都会に無い宝物を見つけること(魅力の発掘と育成)
 - ・「地域資源」の捉え方(自然・景観・行事・芸能文化・食文化・人的資源?)
 - ・「地域資源」＝「地域の魅力」の育て方(例)文化資源を観光資源に
 - ・「自分たちの地域のキーワード」を売る

2. 「田舎の求めるものと都会の求めるもの」
 - ・グリーン・ブルーツーリズム
 - ・都市住民の余暇(時間を消費させる)



3. 事例紹介「鴨川市の都市農村交流事業」みんなみの里の取り組み
(具体的にはパワーポイントで)



4. 日々の生業(なりわい)を売るヒント

※何でも経済効果や効率追求に走らない精神文化を持とう！

- ・ 過疎・高齢化・後継者難+3K 的労働環境を楽しむ(逆説思考)
- ・ 川上と川下の交流の輪をつくる(相互依存を高める)
- ・ 食材・食文化・食の安全・自給率の向上のためのオーナー制度の活用
- ・ 歴史文化・伝承芸能の活用による交流の仕組み作り
- ・ 田舎暮らし体験の受け入れ(民泊・援農)＝田舎の知恵のお裾分け
- ・ 産業交流の可能性(6次産業化? 農商工連携事業化?)
- ・ 情報発信力アップ(IT活用・ロコミネットワーク)とリピーター作り

5. 「何のための」「誰のための」「誰がやる」事業なのか?よく考えよう!